

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070103316
法人名	(株)アニマート
事業所名	あさひの家
訪問調査日	平成22年 3月 15日
評価確定日	平成22年 3月 26日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070103316
法人名	(株)アニマート
事業所名	あさひの家
所在地	和歌山市朝日21-1 (電 話)073-479-5566

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成 22年 3月 15日	評価確定日	平成 22年 3月 26日

【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 12 人 非常勤 10 人	常勤換算 6、7 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円		その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(135,000 円)		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,300 円		

(4)利用者の概要(平成22年2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85、5 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	稲田病院 谷口歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした田圃の中に、暖かな木の手触りを感じさせる建物がある。玄関を入ると入居者による達筆な筆書きの理念が掲げられ、たえず理念に基づいたケアが提供できるよう取り組まれている。職員は入居者の思いを大切に聞き、生活のなかで共に支えあっている。ゆったりとした時間の中で、自由にくつろぎ、それぞれの思いで職員と共に外出したり、入居者が笑顔の中で1日を自分らしく楽しく過ごせるように支援されている。中庭の野菜作りや季節の花々の手入れもみんなの楽しみとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価後、改善課題に取り組み、できるところから改善しようとしている。運営推進会議には地域住民や支所の所長が参加するようになり、地域とのパイプも太くなり交流も活発に行われるようになった。また、災害時の備蓄も用意された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価には全職員で取り組んだ。自己評価に取り組むことで、職員の入れ替わりがある中もケアの質の確保を維持できたことを改めて確認できた。これを機会として更に質の高いサービスを目指している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月に一度開催されている。討議内容は報告中心となっているが、メンバーにグループホームを知ってもらうことや情報収集にもつながっている。参加者よりボランティアの申し出や紹介があったり、地域住民への伝達ができるなど、地域を含めたグループホーム運営に反映できるように活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の家族の訪問時には日頃の様子を話し、意見もよく聞くように努めている。また各ユニット毎に家族交流の日を設け家族同士話し合える場を設けるなど、意見や苦情、不安が云える場作りをしており、出された意見を運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し地域の清掃活動にも参加している。近隣の学園生との月1回の交流会、地域のボランティアの受け入れも行われており、近所の人々が犬の散歩に立ち寄りたりと、地域との交流は多い。また、支所の文化祭への出席予定もある。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初の全職員がホームでのケアの姿について考え、話し合って作り上げた理念ではあるが、地域のなかでの暮らしをイメージできるものとはなっていない。	○	事業所が設立され6年になり職員も入れ替わり、新たな職員も多くいる中、改めて原点に立ち帰る意味も込め、地域密着型サービスについて話し合いを深め、理念を作り上げることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの玄関に掲げられている。朝礼時には復唱をし、困難な状況が生じて、理念に基づいて行動できるよう日々取り組んでいる。また会議の中でも必ず理念に触れるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の清掃活動にも参加している。近隣の学園生との月1回の交流会、地域のボランティアの受け入れなどが行われ、市の安原支所の文化祭にも出展予定である。近隣の住民との付き合いも自然に行われており、犬の散歩に立ち寄ってくれたりもする。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組んだ。自己評価に取り組むことで、職員の入れ替わりがある中、ケアの質の確保を維持できたことを改めて確認できた。評価を活かし、更に質の高いサービスに向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地域住民や支所の所長、医師、他事業所の代表らの参加で開かれている。グループホームを知ってもらうことを中心にした討議内容であり、地域の協力につながった。入居者、市の担当課の職員、地域包括支援センターはメンバーに含まれていない。	○	課題解決にむけて市との協働関係を築いていくためには、市の担当課の職員または地域包括支援センターの職員をメンバーに加えることが望ましい。また、会議はホーム内の入居者の様子が感じられる場所で行われており、なんらかの形で入居者の参加も望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課の職員とは必要な事務連絡以外にやりとりはあまりないが、支所の所長とは運営推進会議以外にもボランティアの紹介など常に行き来し情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が月に1度は訪問しているので、その都度、入居者の日頃の状態を伝えたり、意向を聞いて、個々に合わせた対応を行なっている。また、月1回発行の新聞には写真を多く載せ、ホームでの様子が伝えられるよう工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した折には、要望や意見を聞いている。家族会はないが、各ユニット毎に家族交流の日を設け、家族間で話し合えるような場を設けている。食事のアドバイスを受たり、共用空間の飾り付けに対する注文も出たことがあり、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は馴染みの職員との関係の継続を重要としている。新しい職員が来たときは、今までの職員と一緒に行動し、言葉遣いに気をつけながらコミュニケーションを取ることを第一として、入居者に安心してもらえるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には出来るだけ多くの職員が参加出来るよう、情報は常に職員に伝え、本人の申し出も考慮し、勤務扱いとして参加している。参加後は報告書を作成し、閲覧した職員同士の話し合いの中で、サービス向上の意識が高まっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会に入会し、同業者と多くの交流を持てるよう努めている。また、職員は研修に参加した他事業所の職員と意見・情報交換を行っているが相互訪問などは実施していない。	○	研修には積極的に参加を促してはいるが、他事業所との交流や相互研修により得られるものは、当事業所のサービスの質の向上へと結びつくと思われるので、職員が他のグループホームを見学できる機会を設けるなどの取り組みに期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族から集めた情報を大切にして、家で行っていた馴染みの事柄を、こちらでも引き続き行ってもらよう努めている。入居当初は、家族の協力を得ながら、夜間の訪問・外出・外泊などを頻繁に行い、安心して生活できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩であるという気持ちを忘れずに接している。ダシの取り方、花の活け方、昔の歌も教えてもらい、自分も支えられているという思いで入居者と日々過ごしている。入居者から、いたわる言葉を掛けられたりすることもあり、共に支えあう関係が築かれている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はゆっくり座ってお茶を飲みながら、入居者一人ひとりの思いや希望をじっくりと聞く時間を持つように努めている。返事の調子で、どんな意向なのか把握できており、会話が困難な人ともコミュニケーションがとれるよう工夫し、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞きながら、全職員で理念に沿ったケアが提供できるように話し合い、事業所独自のシートを使い一人ひとりに合わせてきめ細かな介護計画を立てている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、計画を見直している。事業所独自に作成したシートを検討しながら、全職員と話し合っている。家族に手渡された見直し書には、家族からの意見を書く欄もあるが、あまり活用されず、前回と変わらない内容が多く見られる。	○	事業所独自の介護計画シートがあり、職員も一生懸命取り組んでいるが、十分に活かされていない。出来なかったことが出来た時に、介護の次のステップが見えるような、もう少し一人ひとりに見合った具体性のある内容の検討が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月1回本人にとって馴染みの場所を訪れる「ふるさと訪問」を実施したり、墓参りへ行ったり、特別な外出支援を行っている。海遊館に皆で行くなどの年2回の遠出も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を受け入れ、入居後もかかりつけ医の受診が出来るよう支援している。家族の代わりに通院介助も行い、日頃の様子を医師に伝え、その後の報告も家族に行い、情報を全職員が把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては、家族の希望があれば、重度化した場合も対応することは契約時に伝えている。体調が悪化した時、長期の入院になる時など、その都度、主治医、家族、職員で話し合い、家族の思いを大切にしながら方針を全員で共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳が保たれることば遣いを大切にしており、プライバシーに配慮したケアを心がけ、気になる場面に出会ったときは、そのつど職員同士注意し合うようにしている。個人の書類は事務所に置かれているが、名前を後ろに向けるなど、取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は各々起きた時間によって自由に食べられる様に配慮されている。その日の本人の希望で、職員と共に散歩に出たり、ケーキ屋に買い物に行ったりと、一人ひとりのペースを大切に、見守っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、買い物、調理、片付けと入居者と職員が共に行っている。入居者は自分の茶碗、はし、湯飲み等で、職員と一緒に和やかな会話をしながら同じ食事を摂っている。時には、中庭で収穫した野菜なども食卓に出したり、中庭での食事も行われる。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば、毎日でも、いつの時間帯でも入浴が出来るよう支援している。あまり入浴を希望しない入居者にも、声掛けやタイミングを大切に、入浴を楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で出来ることは本人にしてもらうことをケアの基本とし、常に職員は見守りに徹している。洗たく物のたたみ、調理、中庭の草抜き、花を活けたりしている。習字の得意な入居者に、毎月の行事や毎日の献立等を毛筆で書いてもらっている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日食材を買いに外出したり、昼食後の散歩も入居者の楽しみである。時にはドライブで遠出をしたり、喫茶店に入ったりと、職員は積極的に入居者が戸外に出掛けられるよう支援している。また外食も楽しみの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけていない。外出したい入居者も居るが、ドアを開けるとチャイムも鳴り、職員が常に見守って様子を把握し、声かけに努めている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は、消防署の協力で、夜間も想定した防火訓練を行っている。地域との協力体制はできていないが、訓練時には、職員の学習会も併せて行い、常に避難できる方法を身につけている。災害時の備蓄は用意されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量について、必要量が摂取できるように支援している。1日最低7回は水分をとる時間を設け、また食堂にはポットが常時置かれて自由に飲めるよう配慮され、積極的な声かけもなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の内・外にイスが置かれており、外の景色が眺められる。家族が持参した花々も飾られていて、季節感が感じられる。建物は天井が高く窓も大きくとってあるため広々とし、採光が十分であり明るく快適な共用空間となっている。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は各々にトイレと洗面所、ベッドが据え置かれている。フローリングの床には希望に応じて畳を敷くことも出来る。また、入居者が日頃使い慣れた物を持って来ており、足踏みミシンが置いてあったり、お気に入りの写真が飾られたり、安心してくつろげる居室となっている。		